

ヨーク公姫宮エリザベス女王の

ナーセリー拜觀

宇佐美 ケイ

ヨーク公第一の女王エリザベスは我が 照宮成

子内親王殿下と御同年輩であらせらるので、其御日常をまれ承り度きものと冀ひ、またお許しをえたならば姫宮のナーセリー(御保育室)を拜觀いたしたいものと切望し、在英の二三友人諸姉にもはかり、ことに英大使松平夫人は種々骨打下さつて遂にヨーク公妃殿下の破格の思召によつても許しがあり、一九二九年七月一九日松平夫人と同伴御殿に出頭することになつた。此日御一族は田舎の御別邸にお出ましにて其お留守の間に拜觀さし

ゆるされたわけである。

御殿に上ると御用係がおまちらうけて、すぐ三階にある姫宮のナーセリーに御案内があつた。リフト(升降機)から出てすぐ表通りに面した約十二疊敷位のお部屋が宮様晝のナーセリーである。ヨーク公の御殿はバッキンガム宮殿に近い相當往來しげき通りに面した、普通の住宅と軒を並べたお建物である。で通りの騒音を避くる爲めに全部二重の硝子戸になつて居り、二つの扉がある。厚い緑色のラッグがしきつめてある。(元來ナーセリー

は板敷か普通であるがまだ御幼少でいらせらるゝのと、お一方でいらつしやる故にかく敷物がしきつめてあるのであると考へる）玩具を入れた二重

戸棚が入口の左の壁に添ふて一つおかれてあり、中央と窓に添ふた所に小さな低いテーブルが一つ宛置かれてある、窓に添ふたテーブルの上に御兩親宮のお寫眞が飾つてある。小さい可愛い、お椅子が二つ、お部屋の隅に蓄音機が一つ、他にピアノもオルガンもない。他の隅の方に小さい乳母車が二つ片よせてある。これは宮様が常に押してお遊びになるもので中に可愛い、お人形が寝てゐる。玩具の戸棚には種々の玩具が澤山ならんでゐる。上のお戸棚には銀器の小さいカップなどその他觀賞用の玩具がならび、下の戸棚には平常御愛玩と拜されるおもちゃが澤山、種々の人形、犬、猫、熊、などぎつしりならべてある。大部分の御玩具は田舎の御殿におありと御用係が話された。

敷物は濃い緑色、カーテンもテーブル掛も皆緑を基調とした地紋、或は花模様で壁も淡緑色である。

續いてナイトナーセリーはや、おせまく、また何の御裝飾もなく、宮様の小さいベットとお附の寢台と洗面台が一つ置かれて居るだけ、宮様のベットは白ペンキ塗の周圍に高さ三尺位の格子のついた極めて御質素なものである。

次に細長い狭いバントリ（食料室）が續く、全部白壁に同じく白ペンキ塗の据えつけの食器戸棚、流し、電気コンロの小さいのが二つ、ほんの召し上るお乳をあたゝめる位に用ひるといふ事である、續いて浴室があり、其處に可愛い、バスタツプが一つ、その他に洗面用流しが鏡の前に一つ隅の方に洗濯籠がある。

よろづに極めて御質素に拜す、一言以て評し上ぐれば御簡素の言葉に盡きると思ふ。

御日常の一端を御用係から承るに、宮様の御養育に就ては妃殿下の御用意に御周到にて、一々御自身お指圖にて二人のナースがお世話申上げ、お食事その他の御起居一切ドクターリアードの意見を御信任にて其著書を御精讀なされ、それによらせらるゝといふ。

宮様は朝七時に御起床一杯のミルクをめし上る。お庭にてお遊び、九時の御朝食は御両親の宮と御一緒にめされ、しばらく母宮のお傍にてお遊びの事もあるが、大方はお庭にお出まし、午後一時に御中餐、二時から大さいお車の中にてお庭の木かげにお晝寝を遊ばす、四時にお茶、ビスケットをめし上り御入浴後七時に御寝。

尙お遊びのお相手は今特別に上つて居られぬ、すぐお隣りの子供が時々上るだけ。お稽古もまだお初め遊さず、満五歳にお達しの後佛語のお稽古をお初めの豫定の由。

小さき姫宮エリザベス殿下は英皇室に於かせられて唯一方の幼い宮様であらせらるゝ(昨年お妹の宮様が御誕生になつたが)ので殿下に對する祖父母君現皇帝皇后陛下は實に世の常ならぬおつくしみと承る。

兩陛下の間に小さいお身體をうづめられた御同列のお車を拜寫したお寫眞はよく英國の新聞にて拜見するところであつた。最も美しくあらせらるゝヨーク妃殿下と幼児として最も麗しき御發育をとげられつゝある小さき姫宮とは英國民の誇りとし愛敬の的である事を言ひ難き感激を以て拜聞したのである。

外國人である私がかくしてロイヤルナセリーの拜觀のお許しを得たに就ては親しき方々の種々のお骨折があつた、その中に私がロンドンで一緒に暮したミスサンダースといふ婦人が眞剣に心配してくれたのであるが此事に就て私が大いにかの

婦人に學ぶ所のあつた事を附記したいと思ふ。

ロイヤルナターセリーの拜觀は渡歐前からの念願であり紹介狀を認めて貰つたミスボサンケット(高松宮妃殿下の英語の先生)から二三の友人へ其件を特に依頼して貰つた。其一人から私の希望に對し何とか取計らふ事が出来るだらうといふ手紙を受取つた。同時にミスボサンケットの令妹(在ロンドン)も亦ヨーク公の事務官夫人に私の希望を話して下さつた。私の友人ミスサンダースはミスボサンケット令妹と親しき間柄、切りに私の爲めに交渉の勞をせられた、一兩日してミスボサンケットからミスサンダースに電話で、ヨーク公殿下は今日まで誰にも姫宮のナターセリーの拜觀をゆるされないから、所詮願つても駄目であらうと事務官夫人がいはるといふ事であつた。私は先きに可能性を多分に持つた手紙を一英婦人から受取つてゐる話をするミスサンダースは、その骨折

はむだである。かく事務官夫人がいはれ、英國人づさへ許されぬものをお前がゆるさるゝ筈はない、人に徒勞をかけるのはよくないから早速此方の結果を報じて其方の交渉を止めて貰ふがよいといふ。私は其婦人が折角親切にいはるゝことであり、また如何なる道が開けぬとも限らぬからこのまゝにしておきたいといつても無益であると主張し、且つそんな場合にすぐ取消するのが正當だといつて常に妹のやうに私をいつくしみ導いてくれてゐるだけに殆ど壓迫的に斷りの手紙を書かせられて仕舞つた。英國人の自信力の強い事は見聞して居つたが、かうまでに自己を主張するのがにくいほどであつた。しかし一方前田侯夫人、松平夫人の親しいレデイスイツリングがヨーク公御用係長と親しき間柄であらるので此方に願つて見やうといふ事になつて居つたので、私は此方面から道の開かれるのをひたすら祈つて居つた。

その手紙を書かされた翌日松平夫人と前田夫人から前後してお電話でヨーク公姫宮のナーセリー

拜觀がゆるされて十九日午後四時半に松平夫人と御殿に出るやうにといふ事を知らせられた。私は受話機をかけるとすぐ部屋にゐるミスサンダースの所へとんでゆき、その事を告げた。その時私は實に感服した。お、それはよかつた、お前は何といふ幸福な婦人であるか」といつて私をいだいて共に悦んでくれたその態度、私共であつたら、あれほど絶対に不可能だとまで言ひきつたが、つひ昨夕であるとしたら、一寸さまりの悪いやうな妙な氣持が先きに立かうと思はれるのに、何のこだわりもなく我事の様悦ぶ事の出来る眞實の友情と其明るさ、英國婦人の美しい眞實にしてありのままな特色を遺憾なく見せられたやうに思つて、物事にあつさりとなれない、無駄な心支ひに大事な精力を消費する事の多い自分を直みて恥かしく

も亦この點をこの國民に學ばねばならぬと思つた事である。

松平夫人の當日のお話に妃殿下に數日前に拜謁の時「日本の貴族の幼兒教育の任にあるといふ事であるならば何か參考になる事もあらう、ゆつくり見るやうに」と仰せられしと承り感激に滿たされた次第である。

